

事務局：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

電話 / FAX : 03-5740-9505 e-mail : 最後のページ参照

日本教育工学会ホームページ <http://www.jset.gr.jp/>

ISSN 1340-9913

## 第25回日本教育工学会全国大会を迎えて

第6代会長 永野和男（聖心女子大学）

日本教育工学会は、今年の11月1日で、創立25周年を迎えることとなります。この記念すべき年に、第6代会長に選出されました。身の引き締まる思いです。東京大学での第25回全国大会が、私にとって会長としての最初の行事ということになります。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

さて、日本教育工学会は、これまでの四半世紀、様々な役割を果たしてきました。第1回研究発表大会（教育工学連合大会、於：京都教育大学）が開催された1985年はいわゆる「情報教育元年」と呼ばれた年でした。パソコンがクラス単位で導入され、これらをうまく活かした授業、総合などの新しいカリキュラムが実践的に模索されていた時期でもあります。それらの研究成果はさらに10年以上のち、情報教育のカリキュラム(1997)、教育の情報化(2000以後)、総合的な学習の時間の設置(2002より実施)などの政策を生み出すことになり、現在に踏襲されています。これらが可能になったのは、学習に関する理論や実践的研究を地道に進めてきたこと、通信技術の発展を予見した活用法や支援システムなどに取り組んできたことなど、現場を見据えた研究を続けてきたからだと思えます。研究が実を結び、現実を変化させるには、10年、20年の時間が必要だったということです。

全国大会は、自らの研究発表の場だけではなく、情報を収集したり、意見の異なる方と議論したり、自分の立ち位置や方向性を確認したりする場でもあります。その意味では、発表をしなかったとしても、参加することに意義があります。全国規模の大会ですので発表内容は多方面にわたり完成度もまばらでしょう。しかし、多くの研究が将来に向けての大きな示唆や可能性を示しています。まず参加いただき、それらに直接ふれて、研究の方向性や時代が求めているものを感じ取り、明日の自分の研究の栄養にして下さい。

最後になりましたが、この大会を時間をかけて企画・準備していただいた大会企画委員会の方々、新しい試みを積極的に試行していただいた大会実行委員会の方々、協賛や展示で協力いただいた企業の方々に厚く御礼申し上げます。

### 本号目次

全国大会を迎えて.....	1	論文誌特集号のご案内（第三報）.....	7
全国大会のお知らせ（最終報）.....	2	総会議事録.....	8
6月シンポジウム報告.....	3	理事会議事録等.....	9
冬の合宿研究会のご案内（第一報）.....	5	新入会員／学会日誌等.....	11
研究会の開催案内／発表募集／報告.....	6		

# 全国大会のお知らせ（最終報）

大会Webページ：<http://www.jset.gr.jp/taikai25/>

日本教育工学会第25回全国大会を東京大学（本郷キャンパス）において開催します。合計473件（シンポジウム12件，課題研究41件，一般研究404件（内ポスター102件），国際セッション16件）の発表と新たな試みであるワークショップ9件が予定されています。多くの方々のご参加をお待ちしています。

## 1. 開催期日・会場

期日：2009年9月19日（土）～21日（月）（3日間）

会場：東京大学（本郷キャンパス：福武ホール，工学部2号館，安田講堂）  
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

受付：福武ホール1階テラス及び地下2階ラーニングシアター，  
東京メトロ丸の内線，本郷三丁目駅下車 徒歩8分。都営大江戸線，本郷三丁目駅下車 徒歩7分。  
[http://www.jset.gr.jp/taikai25/schedule/schedule\\_01.php](http://www.jset.gr.jp/taikai25/schedule/schedule_01.php)

後援：文部科学省，東京都教育委員会

## 2. 大会日程

第1日 9月19日（土）	第2日 9月20日（日）	第3日 9月21日（月）
9:00～10:00 受付	9:00～9:30 受付	9:00～9:30 受付
10:00～12:00 一般研究発表1	9:30～12:30 一般研究発表3	9:30～12:30 一般研究発表4
12:00～13:30 昼食，企画委員会 研究会委員会	International Session	International Session
13:30～15:30 シンポジウム1	12:30～14:00 昼食	12:30～14:00 昼食
15:50～17:50 一般研究発表2	14:00～14:30 全体会	14:00～16:30 大会企画委員会 課題研究発表
18:00～19:30 ワークショップ	14:45～17:30 シンポジウム2	
	18:00～20:00 懇親会	
9:30～17:50 企業展示	9:00～14:30 企業展示	
*ポスター発表が19日午後と20日午前一般研究発表2,3の一部で行われます。2日目の全体会では，研究奨励賞及び論文賞の表彰等があります。福武ホール地下2階ホワイエにて企業展示が行われますのでぜひお立ち寄り下さい。		

## 3. 大会当日の受付について

★参加登録者の方は，電子メールで送られた「大会参加票」等をプリントしてお持ち下さい。

### ①事前送金済みの場合（受付：福武ホール1階テラス）

- 電子メールでお送りした「大会参加票」を，大会受付の「事前送金済参加者」窓口でお渡し下さい。電子メールの件名は「大会管理より受付番号を発行しました」となっています。
- お支払いいただいた金額に応じて，大会プログラム，大会論文集等をお渡します。
- プリントして持参していただいた「大会参加票（名札用）」を名札ケースにお入れ下さい。
- 大会参加票をお忘れになる場合に備えて，できれば受付番号をメモしておいて下さい。
- 大会参加票を持参されなかった方は，当日会場に掲示される「事前送金者リスト」で番号を確認の上「事前送金済参加者」窓口にて，その旨，お申し出下さい。
- 送金金額に不足があり，大会当日に差額をお支払いいただく場合は，地下2階ラーニングシアターの「総合受付」でお受けします。

### ②当日参加の場合（受付：福武ホール地下2階ラーニングシアター）

- 当日参加者は，大会受付にて，「当日参加受付票」に必要事項を記入して，それを大会受付の「当日参加者」窓口にてお渡し下さい（名刺をお渡し下さる場合は，連絡先住所等の記入を省略することができます）。
- ただし，学会ホームページから参加登録を行った会員は，自動送信されたメールをプリントしてお持ち下さい。会場で「当日参加受付票」に記入していただく必要がなくなります。
- お支払いいただいた金額に応じて，大会プログラム，大会論文集等をお渡します。
- 名札ケースに名刺を入れるか，お名前をカードに書いて入れて下さい。
- 懇親会費を支払われた場合は，名札にマークを貼らせていただきます。

## 2009年度 シンポジウム報告

2009年6月20日、日本教育工学会2009年度シンポジウムが東京大学福武ホールで開催されました。総参加者数は114名でした。

### 【午前の部：教育工学会重点3領域研究と今後の課題】

午前は学会員向けに「教育工学会重点3領域研究と今後の課題」と題した報告やディスカッションが設定されました。司会の赤堀侃司氏（白鷗大学）より、まず登壇予定であった野嶋栄一郎氏（早稲田大学）が急な校務のため会場への到着が遅れるので、吉崎静夫氏（日本女子大学）に登壇者として加わっていただくことが説明されました。次に、本セッションの趣旨として、2006年度からの3年間、3つの領域を重点項目としてとりあげて研究を奨励してきたこと、本日は各領域の研究について「1. これまでどんな研究がでてきたか」、「2. どのような成果があったか」、「3. これからの課題は何か」について議論をしていくことが説明されました。



第1の領域である「新しいICT技術・教育システムの開発に関する研究」については、矢野米雄氏（徳島大学）が報告を行いました。2004年以降の全国大会の課題研究やシンポジウムから、技術の教育利用・活用に関する研究発表の内容がレビューされ、近年ではモバイル技術・ユビキタス技術などの利活用が重視されていることなどが報告されました。また、2010年度には「学習・教育支援のための技術開発」を論文誌特集号のテーマに据える予定であることが説明されました。

第2の領域である「高度で効果的な教育方法の開発と普及に関する研究」については、永野和男氏（聖心女子大学）が報告を行いました。2007年度・2008年度の全国大会の課題研究における研究発表の内容がレビューされ、いくつかの傾向にまとめられることがわかりました。また研究成果たる論文誌およびショートレターの内容を分析した結果、e-learningに関するものやICT活用に関するものが多いこと、ショートレターには多様な種類があり且つ小中学校の教育を対象とした研究が多いが、論文誌には授業設計モデルに関する研究で且つ高等教育を対象としたものが多いことなども明らかになりました。さらに多様化する教授学習モデルと研究者の立ち位置の難しさが指摘され、共通の言語が必要であることも提言されました。

第3の領域である「教育工学研究・教育実践研究の体系化に関する研究」については、吉崎静夫氏（日本女子大学）が報告を行いました。中山(2006)や山内(2003)、吉崎(2002)らの研究から「教育工学研究における『実践』の位置」が、西之園(1999)や山内(2003)、植野(2008)、稲垣・内垣戸・黒上(2006)の研究から「代表的な事例研究とその成果」が、野嶋(2000)や野嶋(2006)の研究から「開発・実践・問題解決」が紹介され、小学校から大学までの取り組みをつなぐような実践研究の企画・運営等が今後の課題であると指摘されました。

各領域代表者の発表を踏まえ、指定討論者の中山実氏（東京工業大学）より、重点領域研究の意義と波及効果、成果の蓄積や活用、研究者・人材の育成、教育工学の「研究」分野の創成といった全体的な視点からパネリストに対して質問がなされました。またフロアからも様々な質問が出され、パネリストおよび司会の赤堀氏らとのディスカッションが行われました。また野嶋氏が途中から参加され、国際交流などの教育実践研究に関する説明をされました。

最後に司会の赤堀氏は、まとめとして、1. 重点領域研究の具体的な成果・課題をまとめること、2. 教育工学の専門性をどう高めるか、3. 入会者は多いが退会者も多いので、どうやって退会者をくいとめるか、4. 高等教育におけるFDなど大学教育との連携、5. 教育工学の学位取得者を増やすこと、そのためにも教育工学の専門性を確立することが必要である、という5点を整理されました。

### 【午後の部：学力の評価について考える】

国際／全国／地域／学校で実施されている様々な学力調査の結果を生かすには、それぞれが測定している学力を分析し、自らの教育や教育施策の成果と課題を把握して改善を図っていく継続的な検証・改善サイクルを確立することが必要です。そのことについて、教育工学が貢献できることや教育工学に期

待されることについて議論を深めことをねらい、本年度のシンポジウム午後の部が企画されました。

第1登壇者である田仲誠祐氏(秋田県教育庁)は、学力評価を管理する立場からの話題提供でした。秋田県での学力向上に関する取り組みを具体的にご報告いただきました。キーワードは、「手づくり」「情報の共有」「1㎡当たりの課題」。平成14年度から、県内の全学校で、全児童・生徒を対象として学習状況の調査が展開されており、調査の問題作成/採点/データ処理は学校の教員が直接担当(手づくり)していたとのこと。その上で調査結果に対する、県民/県/市町村・学校の意識の共通化を図り、各学校が、調査結果から短いサイクルで解決可能な、具体的な課題を見つけ出し、単元単位での指導の改善に取り組んだ成果として、全国学力調査で小学校の国語・算数が2年連続全1位になったということでした。

第2登壇者は猿田祐嗣氏(国立教育政策研究所)です。国際的な学力評価の主催者の1人としての立場からの話題提供でした。高校生を対象とするPISAで評価するものは、義務教育終了段階でのキーコンピテンシーとして、将来生活していく上で必要とされる知識・能力(リテラシー)であり、評価の仕方としては、能力・状況・知識・態度の4側面があることが説明されました。また、中学生を対象とするTIMSSが評価しようとするのは教育達成度であること、各国の教育カリキュラムを配慮した上で、前提となる「意図されたカリキュラム」、教師が提供した「実施されたカリキュラム」、生徒から表出される成果としての「達成されたカリキュラム」が評価されること、それは教育課程や指導法の改善のための情報提供が目的とされていることなどが紹介されました。

続く第3登壇者は、垂見裕子氏(お茶の水女子大学)。比較教育学および教育社会学の立場からの話題提供でした。国内の学校を対象とした調査結果およびPISA(2000, 2003, 2006)の調査結果に基づき、2つの事実が紹介されました。1つ目は、家庭背景と学力との関係性です。このことから、学力調査を実施する際の保護者調査の必要性が提案されました。2つ目は、評価結果を吟味する際に学校内格差および学校間格差を区別することの必要性です。同一学校に所属する児童・生徒群において確認される学校内格差は、家庭背景に起因する格差であり、日本の学校では非常に小さい傾向にあること、一方、家庭背景の学校平均値を比較することで現れる学校間格差は非常に大きい傾向にあることが紹介されました。ただし、PISAの結果に関しては、「義務教育終了3か月以内」という調査時期との関連から、高校入試の影響が無視できないことも説明されました。

最後に教育学から学力評価を研究する立場として、木原俊行氏(大阪教育大学)から話題提供をいただきました。「総合学力研究会」によるプロジェクトの一環として、教師が自らの指導を改善するための情報提供を意図して実施した調査の中から、特に「家庭学習力」に焦点をあてた結果が説明されました。ドリルと発展問題との両方に取り組む子どもの学力が高いこと、家庭学習指導力の総合スコアが高い教師が担任した子どもの学力が高いことなどが紹介され、その上で、教師の成長モデルと対応付けた授業モデルを提示する試みが報告されました。

その後、指定討論者である吉崎静夫氏(所属は前出)より、各登壇者に対して、田仲氏：「県調査と全国調査との関連」、猿田氏：「日本の子どもの学力は、PISA型の活用力がTIMSS型の基礎力に比べて低い理由」、垂水氏：「学力格差を克服する手立て」「家庭背景が学力に影響する理由」、木原氏：「教師の創造性を発揮させるための仕組み」について質問が投げかけられ、登壇者からはフロアの理解が一層深まる説明がなされました。最後に、学会として学力の定義を明確にして、その実態を把握し、格差を減少させる対処について、社会・学校・地域・家庭で連携して取り組むことが重要であり、その学力が「ある時代、ある地域、あるコミュニティ」としての特異性を有することの意識が重要であると、まとめられました。



文責 永田智子(兵庫教育大学)、香山瑞恵(信州大学)

## 2009年度 冬の合宿研究会のご案内（第一報）

テーマ：教育現場とつくる実践研究のデザイン

新学習指導要領，言語活動の充実，教育の情報化，情報モラル，学校組織のマネジメント，学社連携など，教育現場をめぐる課題は，めまぐるしく変わりながら，かつ多方面に渡って山積しています。

また，教育工学は，幅広く，教育実践における問題解決を志向する分野としてその成果を蓄積してきました。新しい指導法やテクノロジーの導入とそれらの効果検証，教師の力量形成，授業設計の方法論，現代的な教育課題への対応方法などが挙げられるでしょう。しかしながら，それにも関わらず，多忙な教育現場と研究者の間に継続的かつ密接な関係を築いて，実践研究を推進していくことが困難な現実に直面してもいます。

そこで本合宿研究会では，特に教育現場との密なコラボレーションのもとに研究を展開されている講師を招聘し，教育工学における実践研究のデザインやその方法を考えます。さらに学校，社会教育の現場の実践者と語り合う中で，実践研究をデザインし，実施していく際の問題点や教育現場が研究者に期待していることを共通理解し，実践研究の新しいテーマや方法の開拓を目指します。

期日：2010年2月27日（土）14時～28日（日）12時

### プログラムの概要

吉崎静夫教授（日本女子大学人間社会学部）から基調講演「現代の教育課題と教育工学研究のデザイン（仮題）」をいただきます。その後，質的・量的な調査，実践知のモデル化，機器やソフトウェアの導入，授業・教材の開発など，異なるスタイルで実践研究に取り組む研究者から研究事例を紹介し，研究方法について討議します。ワークショップでは，学校現場・社会教育施設の実践者を交え，教育現場の現状と課題，研究テーマ，方法，成果の検証方法について討議することで，仮想の研究プロジェクトをつくります。2日目はワークショップの成果を共有した後，実践研究として求められること，有効な方法論等についてのパネルディスカッションを開きます。

会場：かんぼの宿 松島（宮城県東松島市野蒜字南赤崎89-53）

<http://www.kanponoyado.japanpost.jp/yado/matsushima/>

#### ・車でお越しの場合

東北自動車道大和ICから松島経由で約30km（約50分），または仙台南ICから三陸自動車道鳴瀬奥松島IC経由で約50km（約50分）

#### ・電車でお越しの場合

JR仙石線野蒜駅から約1km（徒歩約15分または車で約3分）

対象・定員：学校教育・社会教育の実践者および研究者，学会関係者（40名程度）

参加費：15,000円（予定，参加費・宿泊と2食分の食事代を含みます）

申し込み方法：後日，申し込み用のWebページを設定し，JSETホームページの「合宿研究会」部分からリンクを貼りますので，そちらからお申し込み下さい

開催担当：稲垣 忠（東北学院大学教養学部）

問い合わせ先：100227jset@ina-lab.net

研究会の開催



テーマ ICT活用の授業研究と教師教育／一般

- 日 時：2009年10月24日（土） 開始予定時刻10:00
- 会場：信州大学（教育学部 西校舎5階（予定））  
（〒380-8544 長野市西長野6-1-0）
- 担当：谷塚光典（[yatsuka@shinshu-u.ac.jp](mailto:yatsuka@shinshu-u.ac.jp)）

- プログラム：プログラムの詳細は、研究会Webページでご確認下さい（10月上旬掲載予定）。
- 発表時間：発表1件につき25分（発表20分程度、質疑5分程度）です。
- 参加費用：参加費は無料です。  
研究会報告集の年間予約購読代金（3,500円）を支払済みの本学会会員以外の方は、報告集代として1,000円を当日受付にてお支払い下さい。また、当日受付にて年間予約購読の申込みも可能です。
- 交通案内：なるべく公共交通機関をご利用下さい。自家用車の方は事前にご連絡下さい。  
【JR長野駅から】善光寺口を出て川中島バス1番のりばから乗車（約10分）、「大門南」バス停で下車して進行方向にある「大門」交差点を左折し、徒歩約5分直進して右側です。  
詳しくは、信州大学教育学部Webサイトの「交通・キャンパスマップ」をご参照下さい。  
<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/education/>
- お知らせ：昼食は、ご持参されるか、善光寺周辺の飲食店をご利用下さい。（生協食堂は土曜閉店）

研究会の発表募集

テーマ： FDの組織化・大学の組織改革／一般

- 日 時：2009年12月19日（土）
- 申込締切：2009年10月19日（月）
- 募集内容：2008年度からFDが義務化され、大学における授業改善の取り組みのみならず、大学内におけるFDの組織化や、大学同士が連携したFDネットワークの構築などが行われつつあります。また、社会の変化の中で、大学の組織そのものの改革も重要となってきました。そこで、本研究会では、大学におけるFDの組織化や大学内外のFDネットワークの構築・運営、大学組織の改革に関する実践の結果や途中経過について、取り組んでおられる方々の発表を募り、議論や情報共有を行いたいと考えております。また、上記のテーマにはこだわらない教育学一般における発表も幅広く募集しております。
- 会場：京都外国語大学（担当：村上正行）
- 原稿提出：2009年11月19日（木）
- 申込方法：研究会Webページよりお申し込み下さい。  
<http://www.jset.gr.jp/study-group/>
- 原稿執筆：締切後1週間以内に、申込時に登録されたアドレスに発表の採択結果と執筆要項を電子メールにて送付いたします。
- 原稿提出：原稿の提出はPDF形式で、研究会Webページの「発表申込フォーム」より、発表申込時に発行された「受付キー」を使用し、期限までに提出いただけない場合は、キャンセルとさせていただきます。

今後の研究会の開催予定

（発表申込み締切は概ね開催日の2ヶ月前となります。）

開催日	募集テーマ（予定を含む）	開催場所
2010年03月06日	教育実践を指向した学習支援システム／一般	広島大学
2010年05月15日	情報モラル教育・ネットいじめ対策／一般	北教大旭川校

研究会の開催報告

- 日 時：2009年7月4日
- 発表件数：26件
- 会場：宮崎大学
- 参加者数：36名

「教科教育学と教育学の交差点」というテーマで、平成21年度の2回目の研究会を開催いたしました。各教科の教育目標の達成や教育実践の変革に寄与することが従前にも増して求められている現状に呼応して、各種ICTの開発・評価、授業におけるICT利用などに関する研究発表が行われました。発表後の議論も刺激的でした。当日は26件の研究発表が行われ、36名の皆様の参加をいただきました。みなさまのおかげで、プログラムは予定通り進行することができました。研究会に参加いただいたみなさまに厚くお礼申し上げます。  
担当：山口悦司（宮崎大学）



# 日本教育工学会論文誌 特集号 論文募集

## 「学習・教育支援のための技術開発論文特集」のご案内（第三報）

現在、学習・教育支援システムの開発研究では、多様化する情報通信技術を基盤とした新たな学習・教育支援の模索、およびWebテクノロジー、データマイニングなどの新しいソフトウェア技術を取り入れた質の高い学習・教育支援の実現が試みられています。また、新しい技術開発だけでなく、既存の要素技術を見直し、新しい活用方法を見出すことも盛んに行われています。今後、こうした幅広いアプローチのもと、有用なシステムが数多く生み出されてくることが期待されます。そこで、本論文特集号では、学習・教育支援のための技術開発に焦点を当てた様々な視点からのシステム開発論文を中心に広く募集します。

### 1. 対象分野

- (1) 新しい学習・教育支援技術の設計・開発（Webテクノロジー、データマイニングなどの利用）
- (2) 学習・教育支援のための既存要素技術の新しい組み合わせや新しい活用
- (3) 学習・教育支援システムのためのユーザインタフェース構築（認知的アプローチも含む）
- (4) 学習・教育支援システム評価技術
- (5) 学習・教育支援システム運用技術（LMS、学習者認証、ポートフォリオ、インフラなど）
- (6) 学習・教育の質向上を目的とした要素技術・システムの開発
- (7) その他、学習・教育支援技術開発に関する研究

### 2. 募集論文の種類

通常の論文誌と同様に、「論文」「資料」「寄書」を募集します。投稿規程は通常の論文誌の場合と同じです。ただし、査読は2回限りとし、編集委員会が示した掲載の条件を修正原稿で満たさない場合は採録になりません。「ショートレター」として既に掲載されている内容を発展させ、「論文」として投稿することも可能ですが、単に分量を増やして詳細に説明しただけでは発展させたことになりませんので、ご注意ください。

なお、本特集号の対象分野外の論文が投稿された場合は、一般論文として扱うこととなりますので、あらかじめご了承ください。

### 3. 論文投稿締め切り日（2010年11月発行予定）

投稿原稿を2月8日までに電子投稿をお願いします。ただし、2月15日までは、論文を改訂することができます。締め切りの延長は行わない方針です。

投稿原稿提出締め切り（電子投稿）：2010年2月 8日(月)

最終原稿提出締め切り（電子投稿）：2010年2月15日(月)

### 4. 論文投稿の仕方

原稿は、「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>)に従って執筆し、学会ホームページの会員専用Webサイトから電子投稿して下さい。郵送による投稿は受け付けません。

### 5. 問い合わせ先

電子メール：tokushu2010@jset.gr.jp

Tel/Fax：03-5740-9505 日本教育工学会事務局

### 6. 特集号編集委員会

委員長：柏原昭博（電気通信大学）

副委員長：渡辺健次（佐賀大学）

幹事：松浦健二（徳島大学），

長谷川忍（北陸先端科学技術大学院大学）

委員：伊東幸宏（静岡大学），

植野真臣（電気通信大学）， 加藤泰久（NTT），

国近秀信（九州工業大学），

小尻智子（名古屋大学）， 小西達裕（静岡大学），

佐々木整（拓殖大学），

竹内 章（九州工業大学）， 仲林 清（放送大学），

林 敏浩（香川大学），

林 雄介（大阪大学）， 東原義訓（信州大学），

平嶋 宗（広島大学），

松田憲幸（和歌山大学）， 松原行宏（広島市立大学），

宮田 仁（滋賀大学），

宮寺庸造（東京学芸大学）， 室田真男（東京工業大学），

吉川 厚（教育測定研究所）， 渡辺博芳（帝京大学）

## 6 月総会議事録

日時：2009年6月20日(土)12:10-12:40

場所：東京大学 福武ホール

### 1. 出席者数の確認

赤堀会長から、出席者数68名、委任状368名、合計436名の出席であり、定款第47条で定める正会員総数1949名の10分の1を満たし、本総会が成立することが報告された。

### 2. 議案承認の件

#### 1) 第1号議案 2008年度(2008. 4. 1-2009. 3. 31)事業報告および収支決算承認の件

中山総務担当理事から事業報告、清水会計担当理事から収支決算が報告された。  
また、山西監事から会計処理および収支決算が正確かつ適正に行われていることが報告された。

以上の報告に対して、第1号議案を承認した。

#### 2) 第2号議案 2009年度(2009. 4. 1-2010. 3. 31)事業計画案および収支予算案承認の件

中山総務担当理事から事業計画、清水会計担当理事から収支予算案が報告された。  
以上の報告に対して、第2号議案を承認した。

#### 3) 第3号議案 会長、理事、監事、評議員の選任の件

澤本選挙管理委員会担当理事から、理事会の決定に従って選任案の説明があった。  
以上の報告に対して、第3号議案を承認した。

赤堀会長から退任の挨拶があった。  
永野次期会長から着任の挨拶があった。

以上をもって、総会が閉会された。



## 第12期第17回/第13期第1回理事・評議員会(合同)議事録

日時：平成21年06月20日(土)13:00～14:00

場所：東京大学 情報学環・福武ホール 福武ラーニングスタジオ(地下2F)

出席：第12期および第13期の理事・評議員・監事

### ●第12期第17回理事会・評議員会議題

1. 第12期第16回理事会議事録が承認された。

2. 会員の移動について以下のように承認された。

新入会員：35名（正会員：24名，学生会員：9名，准会員：2名）

退会会員：20名（正会員：12名，学生会員：2名，准会員：6名）

種別変更：10名（正会員へ7名，学生会員へ1名，准会員へ2名）

(期間2009年5月7日～2009年6月15日)

3. 第12期の総括について

赤堀会長より、12期の総括として、学会の運営において、若手の有能な理事の活発な活動が見られたこと、入会者も多いが退会者もあり、学会としての専門性と多様性のバランスが課題であると総括された。

4. 最後に、今期で退任する理事・評議員より挨拶があった。

### ●第13期第1回理事会・評議員会議題

1. はじめに、永野和男新会長から、新任の挨拶があった。

2. 理事の役割分担について

永野新会長より、別紙に基づき、理事の役割分担について説明があり、了承した。定款に基づき副会長を2名にしたこと、事務会計・総括担当、特別企画(FD)担当を新設したこと等の説明があった。

3. その他

(1) 東原第25回全国大会企画委員長から、課題研究のプロポーザルの進捗状況、企業展示に関する出展の申し込みに関する進捗状況について説明があり、理事・評議員への支援要請があった。

(2) 山内第25回全国大会実行委員長より、1日目にワークショップの枠を(90分)用意したので、その企画申し込みを6月30日まで受け付けるとの説明があった。

(3) 新任の理事・監事・評議員、留任の評議員から挨拶および学会の運営に関する意見があった。

(4) 今後の理事会日程が確認された。

第13期第2回理事会	2009年 7月11日(土)	会場：CIC 708号
第13期第3回理事会	2009年 9月12日(土)	会場：CIC 708号
第13期第4回理事・評議員会(合同)	2009年 9月20日(日)	会場：東京大学
第13期第5回理事会	2009年 11月21日(土)	会場：CIC 708号
第13期第6回理事会	2010年 1月23日(土)	会場未定
第13期第7回理事会	2010年 3月20日(土)	会場未定
第13期第8回理事会	2010年 5月 8日(土)	会場未定

## 第13期第2回理事会議事録

日時：平成21年07月11日(土)14:40～16:20

場所：キャンパス・イノベーションセンター 7階 708号室

出席：永野和男会長，永岡慶三副会長，山西潤一副会長，赤倉貴子，赤堀侃司，植野真臣，木原俊行，澤本和子，三宮真智子，清水康敬，南部昌敏，野嶋栄一郎，東原義訓，堀田龍也，前迫孝憲，宮田 仁，室田真男，矢野米雄，山内祐平，吉崎静夫

1. 第25回通常総会議事録，第12期第17回/第13期第1回理事・評議員会（合同）議事録が承認された。
2. 年度のはじめにあたって（永野）
  - 会長より，今年度の特別な活動について提言があり，了承された。
  - ・25周年に向けて
    - (1) 記念催事として学会のロゴ作成 コンペティションで募集
    - (2) 学会を創設し育ててきた功労者への表彰(功労賞) 例：過去の会長，副会長経験者など
    - (3) 25周年として記念出版等を考えてはどうか（継続審議）
  - ・来年6月の総会について
    - 東京都内で25周年記念として実施，日程は2010年6月19日（土）の予定
  - ・組織検討委員会の設置について
    - 資産管理（過去の論文や資料など）や事務局のあり方，その移行のためのアクションプランを検討する期限付きの委員会を設置する。
    - 委員として，山西副会長，清水，美馬，堀田，中山の各理事・評議員に委嘱する。
3. 会員の移動について承認された（会員総数が2500名を超えた）。
4. 各種委員会の委員の交代について
  - (1) 編集，研究会，企画，広報の各委員会の7月の交代委員について一部変更の上承認された。
  - (2) 上記のほか，顕彰，国際交流についても委員会を設置したい旨の申し出があった。
5. 各種委員会報告について
  - (1) 顕彰委員会
    - 三宮委員長より提案があり，奨励賞，論文賞について審議の上承認された。
    - 9月の全国大会で表彰するとともに，論文賞については要点をプレゼンする。
  - (2) 編集委員会
    - 清水編集長より，順調に編集が進んでいる旨の報告があった。
  - (3) 研究会委員会
    - 小柳委員長に代わり会長より報告があった。
  - (4) 企画委員会
    - 木原委員長より，夏の合宿研究会（8月22日・23日）への参加の要請があった。
    - 次年度シンポジウムの企画について検討された。
  - (5) 大会企画委員会
    - 来年度の全国大会について，2010年9月18日(土)-20日(月)に金城学院大学で行われることが承認された。
  - (6) 国際交流
    - 8月上旬「第3回日中教育工学研究交流フォーラム」（長春市：東北師範大学）を準備中。
  - (7) 特別企画(FD)
    - 会長から前回（3月末）の成果が報告された。
  - (8) 広報委員会
    - JSETニューズレター167-168号台割案について承認された。

■正会員 40名

青野 透 (金沢大学)  
 高橋 亮  
 柿山 浩一郎 (札幌市立大学)  
 加藤 暢恵 (貞静学園短期大学)  
 森下 武志 (桐蔭横浜大学)  
 保田 裕彦  
 (山口県立下関工業高等学校)  
 田中 早苗 (東京家政大学)  
 吉川 厚 ((株)教育測定研究所)  
 上嶋 明 (岡山理科大学)  
 空 健太 (岐阜工業高等専門学校)  
 小尻 智子 (名古屋大学)  
 李 凱 (豊橋技術科学大学)  
 釜賀 誠一 (尚絅大学)  
 小杉 大輔 (静岡理工科大学)  
 宍戸 真 (順天堂大学)  
 森 祥寛 (金沢大学)  
 高橋 憲司 (帝京平成大学)  
 加藤 泰久  
 山本 いづみ (武庫川女子大学)  
 八尋 剛規 (東海大学福岡短期大学)  
 飯沼 瑞穂 (東京工科大学)  
 平澤 実

(株式会社ベネッセコーポレーション)  
 柏木 陽  
 安田 淳一郎 (名古屋大学)  
 渡辺 誓司 (NHK放送文化研究所)  
 佐藤 光年 (四日市看護医療大学)  
 岩田 淳 (島根大学)  
 麻生 良太  
 藤田 裕子 (桜美林大学)  
 Rubens Neil (電気通信大学大学院)  
 佐藤 剛 (帝京平成大学)  
 古池 直子 (独)国立健康・栄養研究所)  
 樋口 順子 (東日本電信電話株式会社)  
 池田 明 (大阪市立扇町総合高等学校)  
 笠原 正洋 (中村学園大学)  
 藤田 敦 (大分大学)  
 龍野 守  
 Cvitkovic Robert (サイバー大学)  
 ドーラン ジョン (中央学院大学)  
 大山 博幸 (十文字学園女子大学)

■学生会員 18名

青木 一郎 (名古屋工業大学大学院)  
 藤原 典英 (兵庫教育大学教職大学院)  
 孫 一 (神戸大学大学院)

山本 美紀 (電気通信大学大学院)  
 山内 崇裕 (早稲田大学大学院)  
 梁 志鋭 (名古屋大学大学院)  
 菅原 朋美 (東京電機大学大学院)  
 石川 奈保子 (早稲田大学人間科学部)  
 福嶋 ゆい (一橋大学大学院)  
 秋山 實 (東北大学大学院)  
 松野 浩平 (滋賀大学大学院)  
 江森 健動 (東京電機大学理工学部)  
 佐々木 佳祐 (岩手大学大学院)  
 芳賀 瑛 (早稲田大学大学院)  
 久保 太二 (滋賀大学大学院)  
 坪野 靖 (兵庫教育大学教職大学院)  
 高橋 南海子 (筑波大学大学院)  
 白坂 高司 (広島大学大学院)

■准会員 5名

富崎 おり江 (名古屋大学大学院)  
 荒川 歩 (名古屋大学大学院)  
 堀米 千春 (尚絅学院高等学校)  
 鈴木 美紗  
 増崎 武次

学会日誌

2009年

9月19日(土)～21日(月) 第25回全国大会 (東京大学)  
 10月24日(土) 研究会「ICT活用の授業研究と教師教育」(信州大学)  
 11月21日(土) 理事会  
 12月19日(土) 研究会「FDの組織化・大学の組織改革」(京都外国語大学)

2010年

1月23日(土) 理事会  
 2月27日(土)～28日(日) 冬の合宿研究会「教育現場とつくる実践研究のデザイン」  
 (かんぼの宿 松島)  
 3月 6日(土) 研究会「教育実践を指向した学習支援システム」(広島大学)  
 3月20日(土) 理事会  
 5月 8日(土) 理事会  
 5月15日(土) 研究会「情報モラル教育・ネットいじめ対策」(北教大旭川校)  
 6月19日(土) 総会・シンポジウム (予定)  
 9月18日(土)～20日(月) 第26回全国大会 (金城学院大学)

ニューズレターの発行スケジュール

本ニューズレターは、総会・全国大会・研究会の開催日の10日前には、会員の皆様のお手元に届くよう発行することを原則としております。また、開催案内等の掲載については、総会・全国大会は少なくとも3回、それ以外に関しては2回程度、皆様にご案内できるように、そして開催後には速やかに報告が掲載できるように、計画して台割を組んでおります。

ご理解の上、本ニューズレターをご活用いただけますようお願い致します。

## 国際会議の案内

### 2009年

E-Learn	<a href="http://www.aace.org/conf/eLearn/">http://www.aace.org/conf/eLearn/</a>	(10/26-30 Vancouver, Canada)
CATE 2009	<a href="http://www.iasted.org/conferences/home-672.html">http://www.iasted.org/conferences/home-672.html</a>	(11/22-24 US Virgin Island)
ICCE 2009	<a href="http://www.icce2009.ied.edu.hk/">http://www.icce2009.ied.edu.hk/</a>	(11/30-12/4 Hong Kong)
ITHET 2009	<a href="http://www.ithet2009.info/">http://www.ithet2009.info/</a>	(12/16-18 Korea)

### 2010年

WBE 2009	<a href="http://www.iasted.org/conferences/home-688.html">http://www.iasted.org/conferences/home-688.html</a>	(3/15-17 Egypt)
SITE 2010	<a href="http://site.aace.org/conf/">http://site.aace.org/conf/</a>	(3/29-4/2 San Diego)
WMUTE 2010	<a href="http://wmute2010.cl.ncu.edu.tw/">http://wmute2010.cl.ncu.edu.tw/</a>	(4/12-16 Taiwan)
ED-MEDIA	<a href="http://www.aace.org/conf/edmedia/">http://www.aace.org/conf/edmedia/</a>	(6/28-7/2 Toronto, Canada)

## お問い合わせ先 (Eメールアドレス)

- ◆ 論文投稿に関するお問い合わせ…………… 編集委員会 (editor@jset.gr.jp)
- ◆ 研究会の開催についてのお問い合わせ…………… 研究会事務局 (study-group-core@jset.gr.jp)
- ◆ 全国大会の開催についてのお問い合わせ…………… 大会企画委員会 (taikai2009@jset.gr.jp)
- ◆ 合宿研究会やシンポジウムの開催についてのお問い合わせ…………… 企画委員会 (kikaku@jset.gr.jp)
- ◆ ニュースレター編集に関するお問い合わせ…………… 広報委員会 (kouhou@jset.gr.jp)
- ◆ その他のお問い合わせ…………… 学会事務局 (office@jset.gr.jp)

### 広報委員会

編集長：清水康敬，担当副会長：永岡慶三，  
広報委員長：赤倉貴子，幹事：伊藤剛和，委員：永田智子，皆川 武，宮田 仁  
E-mail : kouhou@jset.gr.jp

### 日本教育工学会ニュースレター No. 167

2009年09月09日

発行人 永野和男

発行所 日本教育工学会事務局

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

TEL/FAX : 03-5740-9505

E-mail : office@jset.gr.jp

<http://www.jset.gr.jp/>

郵便振替 00180-2-539055